

学級活動指導案（1年）

平成26年9月11日(火曜日) 第5校時 1年教室

1 議題 「 はじめてのうんどうかいをみんなでがんばろう 」

内容(1)学級や学校の生活づくり ウ 学校における多様な集団の生活の向上

2 考察

(1) 題材観

本題材は、学級活動の内容「(1)学級や学校の生活づくり ウ 学校における多様な集団の生活の向上」に関わるものである。

児童は、4月に本校に入学し新しい環境や友達に囲まれながら学校生活を送ってきた。何にでも頑張ろうという気持ちが強く、授業中の挙手も多い。休み時間は皆、外へ出て元気よく遊ぶ。縦割り班で行っている清掃活動では、上級生に手本を示してもらいながら、小さい体で一生涯懸命を運んだり雑巾がけしたりする姿が見られる。

元気な一方、中には自分の言いたいことだけ話して友達の話は聞けなかったり、自分の意にそぐわない遊びであると友達との遊びの途中であっても放り出したりしてしまったりする児童も見られる。また、強い口調の話し方をする人やリーダー的な人の言うことに押し切られて物事が決まってしまう自分の思いを聞いてもらえずに我慢してしまう児童もいるように見える。言い争いが起きた際、教師が中に入りそれぞれの言い分をよく聞き気持ちを代弁してやることで分かり合えると、お互いの思いを理解しきれずに誤解してしまった結果仲たがいをしていたということも少なくない。

このように、この頃の児童は、人の話を正しく聞いて判断し話合いで解決する、という力も経験も不足している。人間関係が希薄であったり、他人に対する共感的理解が十分でなかったりすることも昨今の課題として挙げられている。社会性は、集団生活において児童一人一人が自分の役割や責任を果たす経験を積み重ねることにより次第に身に付いていく。そこで、聞くことを大切にしたい話合い活動を取り入れ、初めての運動会に向けてみんなで頑張ることを自分たちで決めて取り組んでいくことは、学級へまたは学校への所属感を高め、集団の一員として自分の力を生かそうとすることにつながるであろう。さらに、集団の中で人の話の聞き方を身に付けお互いの思いを理解し合えば、児童の人間関係も豊かになり、学校生活をより有意義なものにできると考え本題材を設定した。

(2) 児童（生徒）の実態及び指導方針（男子8名 女子10名 計18名）

本校は、全校児童127人で、1学年単学級または2学級の小規模校であり、1年生は18名の単学級である。これまでに話合い活動の経験はなく、本時が初めての話合い活動であるので、事前にまず「話合いって何?」というところから始める必要がある。また、自分の考えを進んで挙手・発言する児童は多いが、人の話を聞くことは得意でなく、聞いたことを受けて話したり、人の話を正しく理解することが難しい児童もいる。自分の思いが強く、友達の意見を受け入れることや、みんなの意見を生かそうというところまでは達していない。

そこで、指導方針として、「まず、人の意見を聞きながら最後まで聞く」ことや「人の意見を聞いて、それをもとにして自分の意見を話す」等、話合いを通して「聞く」ことを特に大切にしながら、聞き合い・分かり合おうとすることができるようにする。

3 研究との関わり

「集団としての意見をまとめていこうとする児童の育成」
～「話合い大作戦!」を取り入れた学級活動(1)の指導の工夫を通して～

研究仮説

① 聞き合いタイム

「話し合い大作戦！」の話し合う過程において、聞く視点と学級の実態に合った聞き合いパターンを用いる「聞き合いタイム」を設定することによって、友達の意見を正しく理解し公平に判断して、様々な意見を受け入れることができるであろう。

② しんかタイム

「話し合い大作戦！」で、意見を聞き合った後に比べ合いの視点を手がかりとし、めあてに向かって自分の意見を見直す「しんかタイム」を設定することによって、自分の意見を集団としての意見へと深めていくことができるであろう。

③ 分かり合いタイム

「話し合い大作戦！」の比べ合う過程において、視点を与えた「分かり合いタイム」を設定することによって、みんなの意見のよさを生かしながら合意点を見いだすことができるであろう。

本時における具体的な手立て

- ① 聞き合いタイムでは、聞く視点である「うさぎの耳」を意識し聞くことを大切にして、友達の意見を正しく理解し公平に判断して受け入れられるようにする。また、聞き合いパターンのゆっくりパターンを用いて話し合い活動を進めることにより、教師の支援を丁寧に取り入れながら話し合いの流れを身に付けてよりよい聞き合い・分かり合う話し合い活動ができるようにする。
- ② 聞き合いタイムの後にしんかタイムを取り、「しんかのもと」を手がかりとして自分の意見を改めて見直すことにより、自分の意見をめあてにより近づいたものへと深めることができるようにする。その際、黙って一人で考えるようにし、思考を働かせながら聞き合いを整理できるようにする。
- ③ 分かり合いタイムでは「うさぎの耳」「しんかのもと」「話す型」を用い、目的を持って聞き合いを受けて話したり、お互いの意見のよさを生かしながらみんなの意見をしばっていこうとしたりすることで合意形成できるようにする。

4 指導計画

【 第1学年及び2学年の評価規準 】

	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級活動(1) の評価規準	学級の身の回りの問題に関心を持ち、他の児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとしている。	学級生活を楽しくするために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、仲よく助け合って実践している。	みんなで学級生活を楽しくすることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の基本的な進め方などについて理解している。
聞くこと	相手の方を見て姿勢よく聞こうとしている。	どうしてそう思うのか興味を持ちながら聞こうとしている。	大事なことを落とさないように最後まで聞こうとしている。
話すこと	姿勢よく丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話そうとしている。	話す事柄を順序立てて、理由を付けながら話そうとしている。	声の大きさや速さなどに注意してはっきりとした声で話そうとしている。
分かり合うこと	学級生活を楽しくするために、友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりして、話し合いを進めようとしている。		
折り合いを付けること	自分の意見を主張するだけでなく、友達を気遣い仲良く助け合いながら意見をまとめていこうとしている。		

時間	主な内容	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		思考・判断・実践	知識・理解	
事前の活動	問題の発見 議題の選定 問題の意識化	・議題について自分の考えを持ち話合いの順序など簡単な計画について考え、準備している。	・話合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。	・教師と児童が相談して、学校生活の向上につながるための話合いにふさわしい議題を決定する。 ・「うさぎの耳」「しんかタイム」等、話合い大作戦！の内容について理解する。 ・めあてをもとに意見を話合いカードに書いておく。
本時の活動	出し合う 比べ合う まとめる	・よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合える。 ・どうしてそう思うのか興味を持ちながら聞こうとすることができる。 ・話す事柄を順序立てて、理由を付けながら話そうとすることができる。	・司会や記録の仕方の役割や基本的な話合い活動の進め方を理解できる。 ・大事なことを落とさないように最後まで聞くことができる。 ・声の大きさや速さなどに注意してはっきりとした声で話そうとしている。	・議題・めあて・話し合うことを確認する。 ・お互いがそう考えた理由を聞き合い、友達の意見を受け入れる。 ・しんかタイムで、自分の意見を集団の一員としての意見へと深める。 ・全体で、しんかさせた意見どうしを比べて、集団決定に向けて練り合い、いいところを生かしながら合意形成する。
事後の活動	実践	・決定したことや役割を考え、仲よく実践することができる。	・決定したことについて、実践することの大切さや方法について理解している。	・みんなで決めた目標に向かって仲よく実践することができるように、目標を大きく書いて教室に掲示しいつも目にして意識できるようにする。 ・話合いで決まったことを主体的に実行することができたか発表し合う。

5 本時の展開

(1) ねらい 初めての運動会に参加するにあたり、自分たちが頑張ることについて一年生の目標をつくり守れるようにする。

(2) 準備 教師：議題・めあて・話し合うことの掲示用カード、
児童：話合い大作戦！カード(話合いカード)

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間 (分)	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ◇評価 ☆研究との関わり)
1・提案理由、めあて、話し合うことを確認する。	3	☆会を通して聞く視点「うさぎの耳」で聞くことを意識できるように声がけをする。

しゅうだんのために めあてによりちかづいた いけんにしよう	
はなしあうこと	だい一かい はなしあいだいさくせん！
りれいをがんばる	ぎだい はじめてのうんどうかいをみんなでがんばろう
かけっこで一ばんになる	めあて うんどうかいをせいこうさせるためには
れんしゅうをいっしょうけんめいやる	どうしたらよいかかんがえよう
まけてもなかない	
みんなでがんばる	
きょうりよくしてやる	
ダンスをうまくおどる	